

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
 TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL: <http://www.sairingi.com/>
 携帯URL: <http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter: @sairingi

第50回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

期 間：令和4年12月4日(日) 開催

会 場：大宮ソニックシティ

テーマ：「伝統と革新 ～知・技・験の伝承～」
 50回だヨ！ 全員集合～



第50回埼玉県医学検査学会
 運営部長 小原 明

みなさん、事前参加登録はお済みでしょうか？締め切りが20日までとなっております。残すところあと数日ですが、第50回の記念すべき学会へ **鎮集令**

今学会では、しばらく実施していなかった企業展示を行います。リーフレット等の配布、参加者への説明・相談対応、機器・製品の展示を9階905・906号室において行います。この機会に日頃のお悩みを是非相談してみたいかがでしょうか？904号室では、第50回となる埼玉県医学検査学会を記念して学会企画展示を行います。全ての一般演題をスマートフォンでQRコードを読み込むことにより、ポスター会場のように発表前・後のスライドデータをご覧いただくことができます。是非、9階に足を運んでください。

それではここで、学会当日の受付方法をご案内いたします。まずは、ご自身のスマートフォンPeatixアプリをタップし、画面下部に表示されたメニューから①チケットをタップ

②チケット表示をタップ ③QRコードをタップ ④QRコードを表示し、一般会員受付ブースへお並びください。係員が受付端末で読み込むことで参加受付が完了いたします。

事前参加登録(チケットの購入)方法およびPCでチケット購入された方のチケット表示方法は、sairingi.com> [第50回埼玉県医学検査学会](#)> HP事前参加登録をご参照ください。

検査室管理運営研修会報告

テーマ 学ぼうハラスメントの基礎と対策

～ あなたの職場は大丈夫？ どこからがハラスメント？ ～

実施日時：2022年9月22日 19時00分～

会 場：Web開催

講 師：池上 貴子（社会保険労務士法人やさか事務所代表）

参加人数：会員188名

令和4年度 第1回目の本研修会がWebにて開催された。

池上氏よりハラスメントの概要とパワハラ・セクハラ・マタニティハラスメント・パタニティハラスメントについて、具体例などを踏まえた講演が行われた。

パワハラについては、パワハラ防止法における事業主および労働者の責務について、職場におけるパワハラを防止するために講ずべき処置として、①事業主の方針等の明確化及び周知・啓発 ②相談（苦情を含む）に応じ適切に対応するために必要な体制の整備 ③職場におけるパワハラへの事後の迅速かつ適切な対応 ④併せて講ずべき処置（プライバシー保護、不利益取り扱いの禁止等）の説明があった。②に関しては、相談窓口を設置し担当部署・連絡先を提示し周知すること、窓口担当者に対する研修や教育の重要性が示された。また、職場におけるパワハラの詳細と定義とその詳細、代表的なパワハラ6類型（Ⅰ 身体的な攻撃 Ⅱ 精神的な攻撃 Ⅲ 人間関係からの切り離し Ⅳ 過大な要求 Ⅴ 過少な要求 Ⅵ 個の侵害）について、該当・非該当の具体例が提示されており大変参考になったと思う。職場環境チェックリストと劇団「臨検」によるパワハラロールプレイングでの実演により、思い当たる節は無いかな？ 自施設的环境を振り返ってみた方も多かったことだろう。

職場におけるセクハラの詳細とその種類や典型例・セクハラ判断の留意点について説明があったが、パワハラは一般的にどう感じるかが基準となることに対して、セクハラは本人がどう感じたかが基準となることの違いを知ることができた。また、マタニティハラスメント・パタニティハラスメントの定義とその対象となる制度または措置について、具体的な言動例をあげることにより、何がハラスメントに該当するのか理解することができた。劇団「臨検」によるパタハラロールプレイングでの実演では、思わず同じような言動を口走ってはいないだろうか？ と不安になった方がいるのではないだろうか。

私達が若い頃には…つい口にしてしまいがちだが、時代とともに生活環境や取得できる制度は刻々と変化していく。仕事に必要な注意や指導はしなければならないが、代表的なパワハラ6類型のような攻撃・要求・侵害は不要である。また、上司→部下・男性→女性に対するハラスメントだけではなく、同僚→同僚、部下→上司、女性→男性、どの立場でもハラスメントは成立することを念頭に、今一度、自施設的环境をチェックし、持っている知識・技術を最大限に発揮できるよう、快適な就業環境の確保に努めてほしい。

（文責：松本千織）

研究班研修会報告

テーマ 臨床検査技師×診療放射線技師 チームで立ち向かった乳腺症例

主催 生理検査研究班

実施日時：2022年9月1日 19時00分～20時15分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：野口 真弓（医療法人日伸会 かなこレディースクリニック

・一般社団法人乳がん予防医学推進協会 理事）

野澤 亜樹（日本医療伝道会 衣笠病院 放射線技術科

・一般社団法人乳がん予防医学推進協会 代表理事）

参加人数：会員121名

出席した研究班班員：南雲涼太 工藤淳子 野村和弘 小宮山英幸 森充生 横尾愛

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、一般社団法人乳がん予防医学推進協会を設立した代表理事で放射線技師の野澤氏と同協会理事で臨床検査技師である野口氏、乳腺画像診断におけるチーム医療についての講演であった。講演前半は、乳腺超音波およびマンモグラフィの基礎から読影方法、診断のピットフォールと幅広い内容であった。講演後半では、症例の提示があった。この症例提示では、超音波画像診断装置とマンモグラフィ装置の画像所見を補い合う形で確定診断を決定するという、各々の画像診断装置の長所・短所を考えさせられる内容であった。検査施行者は超音波画像所見で迷うこともある。このような場合では、他のモダリティによる画像所見も閲覧できる環境にあれば、それらの画像も参考にすると良い。臨床検査技師は超音波検査以外の画像知識習得も必須となる。講演では様々な画像診断装置を用いたことによって、診断困難な症例も確定診断に導くことができたとの実例が示された。確定診断には、多部署との連携も必要となり、チーム医療の大切さ、チームで立ち向かった乳腺診断のことなど受講者に伝わったと思われる。また、超音波検査ではブラインドだった疾患を患者の指摘により発見し得た症例報告では、画面を注視するのみでなく患者の訴えに耳を傾けることの重要性を再認識できた。今回の研修で学んだことが、今後の業務の一助になればと思う。

（文責：横尾愛）

テーマ 一般検査と自動化。パート③

主催 一般検査研究班

実施日時：2022年9月7日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講演 1：髄液検査の自動化

講師：佐々木 菜緒（越谷市立病院）

講演 2：自動分析装置の精度管理と有効利用法

講師：村上 拓志（シスメックス株式会社 北関東支店）

講演 3：目視検査における精度管理

講師：藤村 和夫（埼玉県済生会川口総合病院）

参加人数：会員108名 賛助会員1名

出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 渡邊裕樹 小針奈穂美 中川禎己

松本実華 織田喜子

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は「一般検査と自動化。パート③」のテーマのもと佐々木氏、村上氏、藤村氏を講師にWebにて開催した。

髄液検査は脳・神経系疾患の早期診断に重要な検査である。中でも髄液細胞数算定と分類は迅速に行うことができ、髄膜炎の鑑別診断に有効である。計算盤を用いる目視法では検査時間や検査結果に個人間差を認める。また、多くの施設では、年間を通して髄液検体数が少なく技師の教育やトレーニングが難しいなど様々な問題点がある。この様な問題点を解決すべく、自動分析装置を使用し髄液細胞数算定と分類が行われるようになった。そこで、講演1では佐々木氏より、自施設で行った自動分析装置(XNシリーズ)の検討データと施設での髄液検査の運用が報告された。

自動分析装置の再現性は、目視法に比べるとかなり良好な結果であったが、細胞数が少ない場合に多少のバラツキが認められた。目視法との相関性も良好な結果であった。この結果より、佐々木氏の施設では、現在、自動分析装置での測定と目視法のダブルチェックを行っているが、全要員にスキヤッタグラムの見方などの教育が終われば、今後は自動分析装置による測定のみに移行していきたいとのことであった。

講演2では村上氏より自動分析装置の精度管理と有効活用法について講演があった。現在、シスメックス社の自動分析装置で体腔液モードに対応しているのは、XNシリーズ(血液分析装置)とUF5000(尿分析装置)である。測定原理に大きな違いはないが、XNシリーズではスキヤッタグラムを確認でき、微量検体にも対応できる。また白血球分類を行うことができるといった特徴があった。精度管理に関しては普段測定している血液検体との違いから、体腔液モード専用のコントロールがあるため注意が必要とのことであった。UF5000では細菌を拾うことができるといった特徴をもち、精度管理は尿コントロールで対応可能とのことであった。また、XNシリーズとUF5000どちらも相関性は良好であり、どちらの装置を用いても問題無いとのことであった。ただ細胞数の多い検体の場合UF5000は2000/ μ Lまでなら相関性が良いが、それ以上は注意とのことであった。それぞれの機器の特徴や精度管理をきちんと理解することで、各施設に合った有効活用法が見出せるのだと感じた。

講演3では藤村氏より髄液細胞数算定の目視法において精度管理の重要性、精度管理方法について講演があった。

精度管理は、ISO15189を取得する施設をはじめ、全ての施設で行うことが重要である。2017年に【医療法等の一部を改正する法律】が公布され、法律的にもその重要性が増してきている現状があることを知った。

目視検査における精度管理方法は写真を使用する方法(フォト法)と検体を用いる方法(検体法)があり、フォト法においては、顕微鏡にカメラ機能が付いていない施設でも行えるようスマートフォンを用いた写真撮影方法が紹介された。フォト法の利点は一度に多数の実施が容易にできることであったが、細胞分類の精度管理は行えるが、計算盤作製過程における精度管理はできないという欠点があった。それに対して、検体法では人工髄液作製方法(擬似検体)の紹介がされ、手間と時間を要する精度管理方法ではあるが計算盤作製手順など検体を実際に扱う流れなどを確認できるなどの利点があった。検体数の少ない髄液検査だからこそ今一度当院も含め、精度管理方法を見直す貴重な時間となった。

髄液検査は尿検査とは違い、施設によって検体数が少なく、きちんとした精度管理を行わないと技師間差などが生じる検査である。今回の研修会を、施設での髄液検査の精度向上に繋げていきたい。

(文責：中川禎己)

テーマ 2022年 認定試験直前!! 細胞診セルフチェック 第2弾

主催 細胞検査研究班

実施日時：2022年9月15日 18時00分～19時30分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 演 1：呼吸器領域

講 師：稲山 拓司（深谷赤十字病院）

講 演 2：消化器領域

講 師：細田 健太（自治医科大学附属さいたま医療センター）

講 演 3：体腔液・泌尿器領域

講 師：内田 真仁（川口市立医療センター）

参加人数：会員199名

出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 加藤智美 猪山和美 野本伊織
稲山拓司 並木幸子 小川弘美

研修内容の概要・感想など

第2弾となった本研修会は、呼吸器、消化器、体腔液・泌尿器の各領域から、計30問を設問形式で細胞像写真を提示した。講師は担当した各分野の解答および解説を行った。

呼吸器領域は、稲山氏より解説が行われた。良性から悪性まで様々な症例の提示があり、試験対策や日常業務におけるピットフォールも含め、充実した内容であった。

消化器領域は、細田氏より解説が行われた。幅の広い消化器領域を対比とポイントにまとめ、日常業務では遭遇頻度の低い肝腫瘍捺印標本など希少例の提示もあった。

体腔液泌尿器分野は、内田氏より泌尿器分野での良性、悪性の鑑別ポイントについて詳しく解説が行われた。また、体腔液分野では反応性中皮細胞などの良性細胞や悪性細胞の特徴、鑑別方法、組織型推定のポイントについて詳しく説明された。

総じて良悪性の鑑別や試験対策になる鏡検の方法、過去の試験出題傾向や属性のポイントなど、試験を受ける方にはとても効果的な内容であった。また、我々細胞検査士も基本を学びなおす研修会であった。

(文責：野本伊織)

テーマ あなたの施設の染色は満足? ～ HE染色標本作製について ～

主催 病理検査研究班

実施日時：2022年9月16日 18時00分～19時00分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 演 1：HE染色手順のアンケート集計

講 師：森田 繁（さいたま市立病院）

講 演 2：識別しやすいHE染色標本作製について

講 師：末吉 徳芳（サクラファインテックジャパン株式会社 営業本部 学術顧問）

参加人数：会員148名 非会員1名

出席した研究班班員：関口久男 森田繁 高橋俊介 小島朋子 細沼佑介 今村尚貴
遠山人成 松本祐弥 三鍋慎也

研修内容の概要・感想など

今回は最も身近に行われているHE染色について、他施設でのプロトコールや染色性の見極め等、普段なかなか聞くことができない内容を「あなたの施設の染色は満足? ～HE染色標本作製について～」を主題として、2名の講師に講演をお願いした。

森田氏は埼玉県内の15施設を対象に実施したHE染色手順に関するアンケート調査の集計結果を報告した。これによると、染色装置を用いず手染めのみで行っている施設は4施設で、機械化が進んでいることが窺われた。ヘマトキシリン試薬については、7割以上の施設が市販の染色液を用いており、エオジン試薬については1施設のみが自家調製試薬ということで、多くの施設が精度管理や業務効率化の観点から、調整済市販品を用いていることがわかった。また、染色手順については、染色・脱色・色出し等の時間が施設間でばらつきがみられることが浮き彫りとなった。今回の調査では、実際の染色の色味は不明であり、手順のばらつきが染色性のばらつきに繋がるか否かはわからないため、染色性の比較について今後研究班の課題として検討していきたい。

末吉氏より「識別しやすいHE染色標本作製」と題して色素や染色性に関して化学的な側面からの説明と染色性判断のコツについて講演があった。まず、染色に関わる要素として「化学的親和性」「濃度」「透過性（分子量）」が染色の三要素と言われており、これらが各々作用して最終的に一つの染色ができあがることを学んだ。また、エオジンは分子中のBr（臭素）の数の異なるものを混合することにより、染色性に濃淡が生じ、より識別が良好になるとのことであった。染色性を判断する場合には、まず「染色後標本の大きさとブロックの組織の大きさが同じであること」が第一条件で、「血管と内容、その付属部位」で判断することが望ましいとのことであった。HE染色は青紫色と橙色の単純な染色で終わるのではなく、色調や彩度を微妙に調整し、「組織の多様な変化を識別可能な染色性を追求する」ことが大切であるとのことであった。

今後、日常業務でのHE染色チェックにおいて、今回の研修会内容を念頭において鏡検していただければ幸いである。
(文責：三鍋慎也)

テーマ 今さら聞けない!? 薬剤感受性検査の基礎

主催 微生物検査研究班

実施日時：2022年9月29日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：専門教科ー20点

講師：木部 雄介（バイオメリュー・ジャパン株式会社）

参加人数：会員80名 賛助会員1名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 今井美美 佐々木真一 伊波嵩之 大塚聖也
渡辺駿介

研修内容の概要・感想など

今回は木部氏を講師に「今さら聞けない!? 薬剤感受性検査の基礎」という題で講演が行われた。

最初に、薬剤感受性検査の目的や意義、各種薬剤感受性検査法の特徴や正しい操作手順について解説があった。薬剤感受性検査は、感染症診療において適切な抗菌薬治療を行うための重要な鍵であり、さらに薬剤耐性菌の検出や適切な感染対策、アウトブレイク時の情報提供に必要不可欠である。そのため、正しい操作手順および判定方法を習得し、正確な結果を報告することが臨床上重要であるとのことであった。

次に、日臨技臨床検査精度管理調査を絡めて、Web上で閲覧できるCLSIドキュメントの参照方法や薬剤感受性結果の記載方法について解説があった。ディスク法による薬剤感受性検査にて阻止円が形成されなかった際の判定は、阻止円径0mmではなくディスク径の6mmと記載することが正しいとのことであった。また、微量液体希釈法では結果の判定方法や符号を記載する際の注意点について解説があった。精度管理調査では毎年、結果の記載間違いや記載漏れが見

受けられるため、各自手引書を熟読し、正しく結果を記載・報告するようご注意ください。

最後に、自動細菌同定感受性装置の測定原理について紹介があった。各種自動装置により測定方法が異なるため、測定原理を理解しておくことは大切である。

今回の研修会で得た知識は、正確な薬剤感受性結果を報告するために重要である。新人技師には基礎を学べる良い機会であったとともに、ベテラン技師にとっても知識の再確認ができる内容の講演であった。今後のルーチン検査に活用していただければ幸いである。

(文責：渡辺駿介)



お知らせ その1

埼臨技会誌への論文投稿のお願い

埼臨技会誌編集委員長
久保田 亮

埼臨技会誌は年に3回発刊しており、各号には2編以上の投稿論文または施設紹介などの内容を掲載しております。最近、論文の投稿数が減ってきており、冊子化が難しくなっております。そこで、皆様からの論文投稿をお待ちしております。はじめて論文を書く場合や論文の書き方が分からない場合は埼臨技会誌の編集委員が相談に乗りますので、気軽にご相談ください。特に、これまで埼玉県医学検査学会で発表し、優秀発表賞や学会長特別賞を受賞された方でまだ投稿されていない方はぜひ論文投稿をお願いいたします。



お知らせ その2

令和4年度 埼玉県医師会臨床検査精度管理 調査速報値掲載のご案内

埼玉県医師会ホームページ臨床検査精度管理事業・埼玉県臨床検査技師会ホームページに速報値を掲載いたしました。



お知らせ その3

令和5年度賀詞交歓会・ 各賞受賞記念祝賀会中止のお知らせ

令和5年度賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止となりましたので、お知らせいたします。



お知らせ その4

埼臨技事務所の年末年始の休暇について

令和4年12月28日(水)～令和5年1月4日(水)

上記の期間は埼臨技事務所がお休みになります。

1月5日(木)より通常業務となります。

**令和4年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第8回 理事会議事録**

日時：令和4年10月13日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 濱本 松寄

松尾 網野 佐瀬 三木 塚原

伊藤(恵) 神嶋 伊藤(隆)

石井 神戸 小林 長岡

長谷川

(監事) 遠藤 細谷

Zoomにて出席

(理事) 長澤 阿部 久保田

欠席：(理事) 山口

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は21名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和4年9月8日～令和4年10月12日)

9月8日(木) 令和4年度第7回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄、阿部、網野、佐瀬、三木、塚原、伊藤(恵)、神嶋、伊藤(隆)、神戸、石井、小林、長岡、久保田、長谷川、遠藤、細谷

9月8日(木) 事業部会議：

猪浦、長澤、塚原、伊藤(恵)、神嶋、伊藤(隆)

9月10日(土) 日臨技執行理事会：神山

9月10日(土) 埼玉県医師会臨床検査精度管理調査試料発送作業：

松岡、山口、長澤、神戸、長谷川、塚原、三木、小林

9月11日(日) タスクシフト指定講習会：

猪浦、松岡、濱本、松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬

9月12日(月) タスクシフト指定講習会会場打ち合わせ、備品搬入：猪浦

9月15日(木) 第50回埼玉県医学検査学会実行委員会：神嶋、佐瀬、三木

9月5日(月)～16日(金) 第2回編集委員会：松岡、山口、神戸、久保田

9月22日(木) 第1回検査室管理運営研修会：塚原、伊藤(隆)

9月23日(金) 日臨技支部長連絡会議：神山

9月24日(土) 日臨技役員勉強会：神山

9月24日(土) 日臨技理事会：神山

9月24日(土) 日臨技理事研修会：神山

9月27日(火) 日臨技組織運営委員会：神山

9月27日(火) 検査室管理運営委員会：猪浦、松寄、塚原、伊藤(隆)

10月1日(土) 日臨技関甲信支部幹事会：神山、松岡

10月1日(土)～2日(日) 日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会：神山

10月11日(火) 深谷市合同イベントFK Fes直前実行委員会：塚原

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 9月15日(木) 地域医療介護総合確保基金のWeb説明会に松岡優副会長と猪浦一人副会長が出席した。

2) 10月4日(火) 長野県臨床検査技師会より創立70周年記念式典・記念講演会の案内があり、当会より神山清志会長、松岡優副会長、山口純也副会長が出席する。

2 総務部

1) 9月11日(日) タスクシフト指定講習会(埼玉県009)を開催した。(別紙資料1)

2) 9月12日(月) 国際医療専門学校でタスクシフト指定講習会の打ち合わせと備品搬入を行った。(別紙資料2)

3) 10月15日(土) 埼臨技だより521号発行予定。

4) 10月15日(土) 会員名簿使用状況アンケート一斉メール送信、だより10月号掲載予定。

5) 11月20日(日) タスクシフト指定講習会(埼

玉県010) 開催予定。実務委員は猪浦、松寄、伊藤(恵)、佐瀬、長澤、長谷川、松尾、網野を予定。

- 6) 埼玉県医学検査学会の撮影記録について
(別紙資料3)

3 事業部

- 1) 9月8日(木)事業部会議を開催した。
(別紙参照4)
- 2) 9月22日(木)第1回検査室管理運営委員会研修会を開催した。
(別紙参照5)
- 3) 9月27日(火)検査室管理運営委員会を開催した。
(別紙参照6)
- 4) 令和4年度検査と健康展の後援依頼、申請書を関係各位へ送付した。
- 5) 10月11日(火)深谷市合同イベントFK Fes直前実行委員会に参加した。(別紙資料15)

4 学術部

- 1) 9月5～16日の間、第2回編集委員会を開催し、埼臨技会誌の今後について検討した。
(別紙資料7-1, 2)
- 2) 11月22日(火)令和4年度第2回研究班運営委員会開催予定。
- 3) 2月の病理検査研究班研修会『遺伝子関連・コンパニオン診断の最前線』は、遺伝子染色体検査研究班との合同研修会となった。
- 4) 生涯教育研修プログラム12・1月分を埼臨技だより10月号に同封予定。

5 精度保証部 特になし

6 会計部

- 1) 令和4年度正会員費12名60,000円、入会金9名9,000円、再入会金3名3,000円、合計72,000円の入金があった。
- 2) 石井印刷に埼臨技だより第520号印刷代184,140円を支払った。

7 精度管理委員会

- 1) 10月中旬、令和4年度臨床検査精度管理調査速報値を医師会、技師会HPにて掲載予定。

8 一都八県会長会議 特になし

9 日臨技関甲支部

- 1) 11月12日(土)開催の長野県臨床検査技師会創立70周年記念祝賀会に神山清志会長、松岡優副会長、山口純也副会長が出席予定。

10 日臨技 特になし

11 第50回埼玉県医学検査学会

- 1) 9月15日(木)第11回学会実行委員会を開催した。
(別紙資料8)

12 第51回埼玉県医学検査学会

- 1) 第1回実行委員会を10月24日(月)に開催予定。神山清志会長が出席予定。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和4年度分)
令和4年10月1日現在
会員数 3,472名[令和3年度会員数3,329名]
(新入会員 246名)
賛助会員 70社[令和3年度 76社]
承認された。
- 2) 事務局運営規則の改定について
(別紙資料9)

上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、承認された。

3) 事務所年末年始休暇について

年末年始の事務所休暇について12月28日から1月4日までとしたい。

上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

- 1) 第51回埼玉県医学検査学会実行委員について
(別紙資料10)
上記の件について、阿部健一郎総務部長より発言があり、審議の結果、承認された。

3 事業部

- 1) 令和5年度賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会の中止について
新型コロナウイルス感染症感染拡大が終息せず実行委員の確保も困難なことから、開催を中止としたい。

上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 2) 全国検査と健康展のチラシ配布について
(別紙資料11)

上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、審議の結果、承認された。

3) 青年部委員の追加について

1名欠員補填に新座志木中央総合病院

峯岸将臣氏を推薦したい。

上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、審議の結果、承認された。

4) 委員会名の変更について

女性技師企画研修委員会の名称を「ワークライフバランス推進委員会」に変更したい。

上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5) ワークライフバランス推進委員会研修会の開催について

ワークライフバランス推進委員会研修会の講師に林祐樹氏（歌舞伎俳優）と梶山広美（前日本臨床技師連盟会長）をお招きし、2月12日（日）に開催したい。

上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、審議の結果、承認された。

4 学術部

1) 埼臨技だよりへの記事掲載について

（別紙資料12）

上記の件について、久保田亮編集委員長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部 特になし

6 会計部

1) 研究班運営マニュアルの変更について

（別紙資料13）

研究班通帳借用願（書式23）の宛先を会計部長から会長に変更したい。

上記の件について、石井直美会計部長より発言があり、審議の結果、承認された。

7 精度管理委員会 特になし

8 第50回埼玉県医学検査学会

1) 別紙資料8の上申事項について承認いただきたい。

上記の件について、三木隆治学会担当理事より発言があり、審議の結果、承認された。

IV. 議題

1 事務局 特になし

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

朝晩冷え込むようになり秋もかなり進みはじめましたね。空を見上げ（ゴミ袋をもって）いわし雲をみると、“あー秋だなー”と実感します。

この時期、家内の実家から天然なめこ、しいたけが送られてきます。人工ものとはちがいが、食感・風味がまったく違い美味しいのなんの... たまりません。

五十路（50）をむかえ健康も気になりはじめ、腸活、免疫力アップのため、“きのこ力”にすがろうと思う今日この頃です。

ん？ 50！ そう12月4日は第50回埼玉県医学検査学会が開催されます。より多くのおみなさまのご参加を心よりお待ちしております。では“50回だヨ！ 全員集合～”

（佐瀬 記）

